ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」(2)

サルの食事は人間とは正反対である。群れで暮らすサルたちは、食べるときは分散して、①なるべく仲間と顔を合わせないようにする。数や場所が限られている自然の食物を食べようとすると、どうしても仲間とはち合わせしてけんかになる。だから、仲間がすでに占有している場所は避けて、別の場所で食物を探そうとするのだ。でも、あまり広く分散すると、肉食動物や猛禽類にねらわれて命を落とすおそれが生じる。②仲間といれば外敵の発見効率が上がるし、自分がねらわれる確率が下がる。そこで、仲間と適当な距離を置いて食事をすることになる。

しかし、食物が限られていれば、仲間と出くわしてしまうことはある。そのときは、弱いほうのサルが食物から手を引っこめ、強いサルに場所を譲る。サルたちは互いにどちらが強いか弱いかをよくわきまえていて、その序列にしたがって行動する。③それに反するような行動をとると、周りのサルが寄ってたかってそれをとがめる。優劣の序列を守るように、勝者に味方するのである。

強いサルは食物を独占し、他のサルにそれを分けることはない。サルの社会では、食物を囲んで仲よく食事をする光景は決して見られない。でも、サルの基本的な食物は植物なので、強いサルに独占されたからといって食物に困るわけではない。ちょっと移動すれば、食べられるフルーツや葉っぱが見つかる。要するに、サル社会のルールは、食べるときはけんかしないように分散して個食をしましょう、そのためには弱いサルが広く分散しましょう、ということなのである。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』毎日新聞出版 による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「なるべく仲間と顔を合わせないようにする」とあるが、このようなサルの食事の仕方を表す言葉を、本文中から二字で探し、書きぬきなさい。

(2) ——線②「仲間と……下がる」とあるが、このためサルはどのように行動するか。最も適当なものを選びなさい。

ア 仲間が占有している一か所に集まり、顔を合わせないようにして食事をする。

イ 仲間が占有している場所から遠く離れ、肉食動物や猛禽類がいない場所で食物を探す。

ウ 仲間が占有している場所は避けながらも、あまり広く分散しすぎないようにする。

[　　]

(3) ——線③「それに反するような行動」の例として、適当なものを選びなさい。

ア 食料を探しているサルが、仲間と出くわしてしまう。

イ 弱いほうのサルが、強いサルに食物や場所を譲らない。

ウ 強いほうのサルが、他のサルに食物を分けず、独占する。

[　　]